

2018 度（第 8 事業年度）

# 「事業報告書」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

## 1 事業の概要

2018年度の当財団の活動は、利用者がRubyを安定して利用できるよう、また便利に使えるように、Ruby安定版の保守事業、公募型開発プロジェクトの開発支援を昨年度に引き続き継続しました。また、Rubyの開発コミュニティに対して開発サーバー費支援も継続しました。これらの開発による成果は、多くのRubyユーザーに恩恵をもたらすことが期待されます。

その他にも、開発助成の成果報告会や分散プログラミングのワークショップ、Rubyによるデータ解析をテーマにしたセミナーを開催するなど、新しい分野での情報発信に力を入れました。

当財団は、その目的であるRuby関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野におけるRubyの利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の2018年度の実施状況について報告します。

## 2 体制及びその変更

### 1) 評議員

2018年度評議員

- ・石川 明 (株)日立ソリューションズ
- ・出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム
- ・大場 寧子 (株)万葉
- ・後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・最首 英裕 (株)グルーヴノーツ
- ・立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・中島 宏 (株)DTS
- ・羽田 昭裕 日本ユニシス(株)
- ・平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
- ・森 正弥 楽天(株)
- ・吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト
- ・吉田 正敏 富士通(株)

### 2) 理事

- ・代表理事 理事長 松本 行弘
- ・副理事長 井上 浩
- ・理事 山根 泉
- 橋本 明彦
- 田中 和明
- 笹田 耕一

### 3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事                    今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問                    松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局                    前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 1 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

### 4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長                立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員                今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

## 3 実施事業

### 1) Ruby 開発及びその他支援事業

#### (1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、開発助成委員会で選考の結果、以下 4 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2019 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・ 応募件数：15 件
- ・ 採択件数 4 件

① 採択者：yamanekko (高橋征義, 山根ゆりえ)	プロジェクト：mrubyの省メモリ化の実現
現在の mruby の処理系は CRuby 処理系と比較してメモリ消費量が少なくなるように実装されているが、マイコン環境ではメモリ (RAM) が少ない場合が多く、現行の mruby を活用することが難しいことがある。 そこで本プロジェクトでは、mruby の ROM 活用を行い、mruby の機能を制限することなしに、RAM が小さい環境でも mruby が利用できることを目指す	
② 採択者：西田孝三 西山和広	プロジェクト：R Markdownクローン「rubydown」の作成と応用
近年「ノートブック」と呼ばれるプログラムコードとドキュメントを一ファイル中に混在させたファイル形式が主にデータサイエンスのワークフローの共有で重宝されている。このノートブックの実装の主なもの 2 つに「Jupyter Notebook」と「R Markdown」がある。Jupyter NotebookにはRuby言語サポートを追加する機能拡張が存在するがそのプログラム構成はR Markdownと比較して複雑でありメンテナンスが容易ではなかった。このプロジェクトではRuby言語によるR Markdownクローン「rubydown」のgemを作成すると共にその応用例を示す。	
③ 採択者：Petr Chalupa	プロジェクト：Enhancing Ruby's concurrency tooling
The objective of the project is to enhance Ruby's concurrency tooling through the concurrent-ruby gem. The gem is well positioned to deliver the new tools to wide spectrum of Ruby users. When the project is finished three new	

concurrency abstractions (promises, actors, and channels) will be available in the concurrent-ruby gem. Their APIs will be designed to provide seamless integration with the other two abstractions, delivering more flexibility to their users. For better performance, a work stealing thread pool will be implemented and lock-free algorithms will be used when possible.

④ 採択者:Kazuma Furuhashi

プロジェクト:Implementation of Charty -  
Visualizing your data in Ruby

Charty is open-source Ruby library for visualizing your data in a simple way. In this project, Implement Data Visualization Tool which has Visualization Layer and Data Abstraction Layer and can support multiple data types and multiple backends. Make the GR Framework available as a backend, and implement Collection Interface and Daru Inteface as Data Abstraction Layer to make it possible to support multiple data types.

## (2) その他の助成

用途を限定しない助成金の申請窓口を設置し、公募型開発以外の分野でも助成を受け付けました。以下はその成果です。

### ① 開発者ミーティング支援

講師を呼び開発中の型推論器についてご紹介頂き、今後 Ruby の型システムにどのように組み込んでいくかについて議論が行える場の支援をしました。

### ② GPU サーバーの助成

CUDA 対応数値演算ライブラリ Cumo の開発・CI サーバーのレンタル費用を助成しました。

### ③ 開発合宿支援

次世代の Ruby 開発に向けて Ruby コア開発者が集まって、開発や議論が行える場所を企画提供しました。

### ④ PPL2019 協賛

プログラミンおよび言語ワークショップ(PPL2019)へシルバースポンサーとして協賛しました。

## (3) Ruby 安定版保守事業

ユーザーが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、昨年度に引き続き中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は 2019 年 3 月 31 日までです。また 2018 年度も引き続き、アメリカの非営利組織である Ruby Central より本事業に対して助成金の交付を受けました。

## (4) サーバー運営支援

Ruby の開発コミュニティに対して開発サーバー費を支援しました。

## 2) 情報発信事業

### (1) 事例紹介

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業の企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報を作成しました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2018 年度は新たに 5 件の利用事例を紹介しました。

2019 年度掲載企業	テーマ
楽天株式会社	Ruby を広範に利用して構築されたグローバルビデオストーリーミングサービス『Rakuten Viki』
株式会社メドレー	オープンな医療の実現を目指す、患者とつながる医療のプラットフォーム
Repro 株式会社	アプリを使うユーザーの行動を知り、適切なマーケティングの一手をスピーディーに投じることができるプラットフォーム「Repro」
スタディプラス株式会社	学習を助ける SNS「Studyplus」で自立的に学習する仕組み作り
株式会社コークッキング	Ruby on Rails を使ったサービス「TABETE」でフードロスのない社会の実現を目指す

### (2) RubyWorld Conference 2018 の開催

2018 年 11 月 1 日(木)、2 日(金)に島根県松江市で開催された RubyWorld Conference 2018 において開催実行委員会の構成団体として参加しました。

### (3) Ruby ビジネスセミナー開催

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てイベントを開催いたしました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数(名)
2018 年 7 月、東京	2017 年度の開発助成事業で採択された開発プロジェクトの成果発表	約 45 名

2018年12月、東京	Ruby Business Users Conference 2018 Winter	約55名
2019年1月、松江	dRubyによる分散プログラミングを体験するワークショップの開催	約15名
2018年2月、大阪	Rubyとデータ解析の現状・今後について議論を深める場の提供	約45名

#### (4) ジョブボード

昨年度から引き続き Ruby の求人情報を掲載できるジョブボードを提供しています。Ruby アソシエーションの協賛会員を中心とした Ruby の求人情報を掲載しております。(非会員企業も求人掲載可能)

#### (5) ウェブサイト

多言語化の取り組みの1つとして英語に引き続き、中国語のサイトを提供いたします。

### 4) Ruby 技術者認定試験事業

2018年度も受験者数拡大に向けた取り組みを行っています。学割は認知度向上に伴い、昨年度と同等の受験者が学割を利用して受験をしています。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分: Silver、Gold)、海外(試験区分: Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

### 5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2019年3月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	34(32)	58(60)
認定教育機関プログラム	3(3)	3(3)
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(2)	1(1)

※( )内は前年度数

## 6) 協賛会員事業

- ・会員資格

法人、任意団体及び個人

- ・会員種別、会費

年会費 1口 10万円 (4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上 (50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上 (20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上 (10万円以上)

2019年3月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間 5 口以上	Gold : 年間 2 口以上	Silver : 年間 1 口以上
13(13)	23(21)	49(46)

※( )内は前年度数